

平成30年度 島根県立益田養護学校 学校評価

①児童生徒が安心して安全な学校生活を送ることができる環境づくりの推進

評価基準に沿った達成状況

A:達成9割以上 B:7割以上9割未満 C:5割以上7割未満 D:5割未満 E:分からない

分掌名	重点目標 (分掌・学部)	評価項目	○評価方法及び★基準	評価点	結果と課題	次年度に向けて改善策	学校関係者評価
実践支援S	①校内での研修や研究会の機会を充実させたり、校外での研修内容の情報共有に努めたりすることで、教職員の資質向上に努める。	・様々な研究会や研修会の情報提供や、各教職員の経験に合わせた学びの機会を設け、教職員が主体的に学ぶことができる場の提供や環境設定に努める。	○教職員、保護者向けにたよりを発行 教職員向け 月1回程度 保護者向け 学期に1回程度 ★実績	B	教職員向けに実践支援たよりや生活単元学習のたよりを1～2ヶ月に1回程度発行した。学期末に保護者向けのたよりを発行した。授業研等への参加が特定の教員にばかりであった。	年度初めに各月のたよりの内容と担当を割り振りしておき、月1回程度の情報発信を行う。HPを活用した情報発信を検討する。	○総括 評価にCがついていないのは、教員の努力である。確かに目標設定が低かったかもしれないが、達成のための努力は感じる。
		・専門家活用(外部講師、WINDによる機関コンサルテーション等)を計画的に実施し、関係機関と連携しながら、児童・生徒の具体的な指導、支援について学ぶ場を提供する。		B	年度途中で関係機関との打ち合わせの場を設けた。指導を受ける体制、指導記録表提出の手順等、見直しを行った。予算の都合上、指導回数の確保が難しかった。	年度初め、年度末に専門家との確認の場を設ける。実施要項を見直し、内容、実施方法の周知徹底をはかる。対象児童生徒の決定にあたっては、目的を明確にし、必要性を吟味する。	
子ども支援S	①児童生徒が安心して安全かつ健康に過ごせる学習環境の整備や、緊急体制の見直しを進める。	・各種シミュレーションを行う。	○捜索・不審者対応 年1回実施 傷病発生 年2回実施 ★実績	B	捜索・・・事前に記録ボードの工夫や地図の整備を行い、実施した。不審者・・・対応時に手荒な部分があり、けがをさせる危険や壁の破損があった。傷病・・・1回目の訓練の結果、効果的であったアクションカードを全教室に配置した。	不審者・・・危険や破損がないように、訓練終了の合図を警察と打ち合わせておく。傷病・・・事前に訓練目的を明確に押さえてから実施する。	○教員の研修 教員の心に余裕はあるのか。文科省の指導で研修を推進しているかもしれないが、教員の負担が心配である。
		・安全点検やヒヤリハットの取組を通して、事故を未然に防ぐための環境整備や注意の呼びかけを行う。	○年3回実施 ○ヒヤリハットの予防対策ケース会を基準に基づき実施 ★実績	B	ヒヤリハット・・・事例についてケース会や全体周知を実施。安全点検・・・期間内に実施されていないことがあった。	ヒヤリハット・・・引き続き取組を実施。今回行った危険予知トレーニングを次年度も行う予定。安全点検・・・めを遵守してもらえるように、より意識啓発を図る。	
情報管理S	①児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した教育を推進する。	・児童生徒及び保護者へ情報モラル教育に関する情報を発信する。	○通信の発行 ★年2回	A	7月にスクールメールの開封確認の仕方と夏休みに注意してほしい内容で発行し、2月中にも発行。分からないという評価がいくつかあった。通信の内容は、教職員も知っていた方が良かった。	児童生徒の実態に応じた内容にしていく。教職員向けにメールで送るようにする。	○人権・同和教育 障がい児教育に携わろうと決めて勤務しているのであれば、人の気持ちにより添えるはず。あいさつや来校者への対応も相手の立場に立てば、不快な思いをさせない対応ができるはずである。
		・図書室の利用を促進するために、学校司書と連携し、図書の購入等を管理したり、図書たよりの発行やイベント等を実施する。	○便たよりの発行 ★年12回	A	季節やイベント、行事などに沿った内容で各月に1回ずつ発行した。分からないという評価がごくわずかにあった。	教職員向けに校務支援システムに発行の要旨を載せるようにする。	
中学部	①生徒、教職員間のコミュニケーションを深め安心して気持ち伝えあえる信頼関係を築き、情報交換を密にして安全に学校生活が送れるような環境設定に努める。	・生徒が安心して自分の気持ちを伝えたり、思いを受け止められたりするような機会を設定する。	○学期に1回程度担任と個人面談の実施(必要な生徒は適宜行う)★実績	A	中学部用の学校生活アンケートを作成、活用し担任を中心に各学期末に面談を行った。また生徒によっては大きな行事前など不安定になりやすい時期に、個別に話を聞く機会を設けることで安心して学習に取り組めた生徒もいた。	生徒によっては面談だけでは十分に気持ちを伝えることができない場合もあるので、学部全体として日頃から生徒が安心して話したり、気持ちを打ち明けたりできるような雰囲気作りが必要である。また面談等の内容を学部内で情報共有していけるとさらによい。	情報共有の方法については資料の閲覧だけでなく、学部会などで生徒について話したり、教員の支援の仕方について確認したりする機会があるとさらによい。
		・生徒に関する情報交換を密にして教員間の共通理解を図るとともに、ヒヤリハット等を活かして安全に学校生活が送れるような環境を設定する。	○チーフ会資料の閲覧率100%。8月と12月の年2回環境設定の時間を設定。★実績	A	チーフ会を週1回程度(全体で30回程度)行い、その内容について中学部全教員が資料を閲覧し確認することができた。またヒヤリハット等を活かし年2回の環境改善を行うことができた。日頃から情報共有や環境改善を意識することで、生徒が安全に学校生活が送れた。(ヒヤリハット数・昨年度22→今年度10)		
人権・同和教育	①人とかかわりを豊かにする取り組みを行う。	・教職員間の関係性を深め、人権意識を高める取り組みをする。	○「thank you タイム」の実施 ★年2回 ○アンケートの実施 ★年2回	B	「thank you タイム」は、各学部、寄宿舎で実施するようにした。会議時間の都合上、実施できない学部もあり、会議時間外で、担任同士で実施するようにした。アンケートを2回実施した。アンケートの結果から、本校教職員の人権意識を高める必要性があった。	会議時間に都合上、時間がとれず実施できないことがある。日頃の学校生活の中で、お互いに感謝の気持ちを持ち、できるだけ感謝の気持ちを言葉で表現するよう呼びかける。今後も職員会の後など、時間がある時は、「ミニ研修」を実施する。	研修等で得た情報を、メール等で発信する。
		・教職員に向けて、人権・同和教育に関する情報を発信する。	○通信の発行 ★年2回	A	通信を2回発行した。研修会や講演会の案内は、その都度情報発信している。		
事務部	①学校事務における組織的・体系的な管理と予算の効率的・効果的な執行に努める。	・教育活動を行う上で、施設・設備・備品・消耗品・旅費等の整備は予算の範囲内で適切に行うとともに、省資源・省エネルギーに配慮し、光熱水費等の経費削減に努める。	○光熱水費の前年度との比較 ★数量ベース、金額ベース	A	・教育活動を行う上で、施設・設備・備品・消耗品・旅費等の整備は予算の範囲内で適切に行うとともに、省資源・省エネルギーに配慮し、光熱水費等の経費削減に努める。		B
		・施設・設備の破損や不具合等について適切に対応する。	○安全点検の結果 ★迅速に対応	A	・施設・設備の破損や不具合等について適切に対応する。		

②児童生徒が意欲を持って取り組むことができる授業づくりの推進

校内研究	②生活単元学習を中心として系統的に学習を積み上げていく中で、子どもが主体的・意欲的に活動する姿を引き出す。	・年間計画に沿ったグループ研究と公開授業の実施	○グループ研究 ★月1回 ○公開授業研究会 ★年2回(チャレ・高7月、小中11月)	A	グループ研究については計画どおり実施できた。校内公開授業研究会についても計画どおり実施できた。校内公開授業研究会については、フォローアップや経験者研修の授業研究も多く、そちらを充実させることも必要ではない。	公開授業研究については、7月に2授業公開し、外部にも案内する。11月については、授業公開週間として、自由に他学部の授業を参観できるようにする。	A
------	---	-------------------------	---	---	---	---	---

③児童生徒の障がいの状態や発達段階に応じたキャリア教育の推進

高等部	③生徒一人一人の生活の質を高めるために、段階・過程・進路を大切にしたり取り組みをする。	・学年・学部終礼等で、生徒について毎日語り合い、一人一人の情報を共有する。 ・生徒の「3年後に目指す姿」に向けて、教員間で支援の方向性を共有し、ケース会の実施、関係機関との連携等、スピードとタイミングを大事にする。	○毎日実施 ★実績 ○ケース会以降の指導・支援の経過と見直し等を記録を通して情報共有する ★実績	B B	学年終礼では毎日実施。 30回近く、ケース会を行った。情報共有やその後の検証等に課題が残った。	概ね達成していると思われるが、生徒の支援等について、学部だけでなく、学校全体に発信していく。 今後ケース会の内容について、概略を学部終礼等で共有し、ケース会の記録の閲覧や学部のフォルダーのケース会記録で共有する。全体終礼等で支援について周知を図る。	○保護者行事への参加 保護者の研修会等の参加率を上げるためには、根本的な改革が必要。参加して得がある研修がよい。たとえば、保護者同士が繋がっていろいろな情報を得ることができるので、卒業生の保護者を活用した研修も有効ではないか。
総務S	③保護者や地域、関係機関と連携しながら、PTA活動の充実・活性化を図る。	・PTAだよりやPTA会報(つくしんぼう)、学校新聞を通し、PTAの活動状況や思い等を会員に配布、掲示、回覧などしてわかりやすく知らせる。 ・施設見学や研修会、奉仕作業等のPTA活動やPTA行事について日程や内容を考慮し、参加しやすい状況を作り、円滑な運営に努める。	○PTAだよりの発行 ★年10回 ○つくしんぼうの発行 ★年2回 ○学校新聞の発行 ★年3回 ○アンケートの実施 ★肯定的な意見9割	A B	PTAだよりは10回計画どおり発行した。つくしんぼうも年2回計画どおり予定。学校新聞は、2回の発行が完了。3回目を三学期に発行予定。校内掲示や回覧で周知することができた。 内容や日程を考慮したが、参加する保護者は限られていた。内容についても、保護者の意見を吸い上げ、なるべく保護者のニーズに応じた内容を計画した。アンケートを実施や、研修会の中で保護者と話すことで、役員以外の保護者の声も聞き入れながら、内容などの検討できた。	内容については、活動の様子をタイムリーに知らせたり、役員会などで保護者の意見を吸い上げ、ニーズに応じた方法で発信していったりするようにする。 来年度は救急蘇生法研修は行わず、進路研修を取り入れる。全ての保護者の意見を取り入れることは難しいが、研修会やアンケート、学級懇談などでも保護者の意見を聞く機会を設け、なるべく保護者のニーズに応じた研修会や行事などを行ってきたい。	
教務S	③全教職員が連携を密にし、児童生徒一人一人の特性や能力を生かしたキャリア教育、道徳教育を推進する。	・キャリア教育推進委員会、各学部・寄宿舎、家庭等と連携しながら、平成30年度ミッションの達成を目指して全校体制で教育活動の充実を図る。 ・長期休業中にますまの会を実施し、全校で話し合いを行い、取組の共通理解、改善を図る。	○アンケートの実施(7月、12月) ★肯定的な意見9割	A A	各学部、寄宿舎で児童生徒の実態に応じてミッションを具体化し、改善を加えながら取り組むことができた。連携に課題が残った。 教職員全員が「ますまの会」を検討していくことに意義を感じている。他学部の様子が分かる。学部等を超えて意見交換ができる、ベクトルを同じくして子どもたちの教育を考えていくことができる等チームますまようとして取り組めた。	保護者等、連携について検討・工夫していきたい。 今後も「ますまの会」を実施し、全校体制で児童生徒の育てたい力を養っていきたい。	
進路S	③各学部、各学年の進路学習の充実に向け必要な情報を提供する。	・進路指導のあり方を見直し、提示することで、小中高と系統だった進路指導を推進する。 ・進路だよりの発行や進路研修会などを実施し、情報提供する。	○進路指導のあり方見直し(年度当初・年度末) 配布 ★1回配布 ○進路だよりの発行 ★年10回発行	B A	今年度当初に各学部、学年で学習の内容について見直し、内容の追加、訂正を行った。今後も実際の学習内容に合っているか、また、その他必要な内容がないかなど、随時見直しや訂正を行い、系統立った進路学習を行うための手引きとしていきたい。 保護者からの疑問や、就労、進路に関わる事柄についての情報や日々の進路の学習の様子などを載せ、情報の提供をしていきたい。	学習内容について、各学部、学年の情報を集め、内容を充実させていきたい。また、進路指導のあり方の活用について促し、進路に関わる学習の充実を図ってきたい。 学習の様子なども積極的に載せることで、保護者に対して、他学部の進路に関わる学習の様子などについても理解を促したり、見直しを持っていただけるきっかけとしたい。	
教育相談S	③特別支援教育に関する地域のセンター的役割を果たし、益田圏域の特別支援教育の充実に努めるとともに、本校の取組や障がいに対する理解啓発を推進する。	・ますまようDE学習会(月1回程度)開催し、特別支援教育等に関する相談・情報提供を行うとともに、益田圏域の小中高等学校の連携を深める機会を確保する。 ・「ボランティア養成講座」「作業学習ボランティア」を開設し、地域の方々と児童生徒が交流できる機会を設定し、学校や障がいに対する理解を深める取組を行う。	○学習会の実施 ★年8回 ○参加者へのアンケートを実施(10月、12月) ★肯定的な意見9割	A A	計画どおりに実施することができた。(残り2月21日実施) 圏域外での参加者やリハの学生の参加があったので、今後も機会を捉えて案内をしていく。 計画どおりに実施することができた。アンケートを実施し、参加者全員よりためになるとの回答をもらった。	アンケートにより圏域の学びたい内容のニーズの把握をする。巡回先等でもお知らせをしていく。 参加連絡のなかった学校等へは再度連絡し、ボランティアの募集を案内する。夏休みの養成講座に参加しやすいように期間を長くする(部活やぼっぼ教室参加も検討)	
寄宿舎	③個々のニーズに応じた支援の工夫に努める。	・家庭や学校と情報をやり取り(連絡帳、懇談、電話等)しながら共通理解を図り支援を行う。	○家庭や学校との情報共有について、12月に教員保護者にアンケートを実施 ★肯定的評価9割	A	計画どおりに教員、保護者にアンケートを実施した。アンケートの回答より、おおむね共通理解を図りながら支援が行えているという回答であった。また、アンケートにあった保護者の要望に対しては試行というかたちで応えた。	寄宿舎に対して要望や意見が言いやすい関係を築いていきたい。	
小学部	③児童の実態把握を踏まえ、個々の教育的ニーズ、家庭のニーズに基づき教育支援計画、個別の指導計画を作成し、自分から周囲の人やものに関わろうとするための支援の工夫や充実に努める。	・保護者と年間3回、関係機関と年間2回懇談会を行い、学級間を超えての情報交換を毎日行い、情報交換会を年間10回行う。 ・環境設定や支援ツールを工夫するための研修会を年間10回行う。	○実施回数★評価項目に準ずる ○実施回数★評価項目に準ずる	A A	目標や評価での懇談、学級懇談を通して目標以上に行うことができた。関係機関については、1〜3とケースによって回数達成にならないものもあった。終礼時にビックリ、ヒヤリハットの報告、学部会を通して子どもたちについて考える時間がとれた。 学部会時に15分程度の研修会を13回以上行った。	遠慮なく学部の状況について尋ねてもらえる関係性を日々構築している。	B